

確認テスト

所属 _____

氏名 _____

権利擁護／虐待防止 事例検討編 ④虐待している職員への指導

事例（ある職員Aさんが受けた説明）

Aさんはパートとして週に4日特別養護老人ホームで働くことになりました。主に認知症の人が入居しているフロアで、入浴介助と昼食の食事介助が主な業務です。このフロアでは、新卒の若いスタッフと年配のベテランのスタッフが半々くらいの割合で働いています。

食堂で利用者の食事介助をしました。その時にこちらを向いて食事をしている車イスのBさんがいました。Bさんの斜め前にはベテランスタッフのCさんがBさんの様子も見ながら、他の利用者の食事介護をしています。Bさんは自力摂取で食事をしていました。Bさんは食堂の壁を背にして座っています。よく見てみると、Bさんのすぐ後ろに壁があるように感じました。

近くの新人スタッフのDさんに尋ねると、「Bさんはすぐに車イスから立ち上がろうとするので、テーブルで立ち上がれないように押さえているんです。前に車イスから立ち上がろうとして転倒したことがあって、家族からは立ち上がれないようにしてくださいと頼まれています」ということでした。それで、車イスで後ろに下がろうとしてもすぐに壁にぶつかって動けないようにしてあるんだと理解できました。

居室ではどうしているのかDさんに尋ねると、「うん、Bさんの部屋はナースセンターの真向かいの部屋なんですけど、すぐに動いたかどうか分かるように掛け布団の足元やくつに鈴を付けているんです。鈴の音が聞こえたら、大急ぎでBさんの部屋に向かいます。本当はセンサーマットか何かがあればいいんだけど、今は他の人に使われちゃっているので、鈴で対応しています。

Bさんが動こうとしたようです。ベテランスタッフのCさんの「ちょっと待ってて、まだこっちのご飯が終わってないから。もうちょっとで終わるから、それまで待ってて。終わったら、テーブルをどかしてあげるから。待っててって。だから、終わったらどかしてあげるからって言ってるでしょ！」という大きな声が聞こえてきました。

1) なぜベテランスタッフのCさんは、テーブルで押さえつけたり、どかさなかったのでしょうか？また、鈴を付けることについてCさんはどう考えたのでしょうか？ Cさんの考えについて考えてみましょう。

2) この事例から、今後新人スタッフのDさんにどのような指導をすると良いのか、自分がリーダーになったつもりで考えてみましょう。

1) なぜベテランスタッフのCさんは、テーブルで押さえつけたり、どかさなかったのでしょうか？ また、鈴を付けることについてCさんはどう考えたのでしょうか？ Cさんの考えについて考えてみましょう。

2) この事例から、今後新人スタッフのCさんにどのような指導をすると良いのか、自分がリーダーになったつもりで考えてみましょう。

1) 解答（例示）

- ・認知症だから転倒予防のためには拘束をしても当然のことだと思っている。
- ・鈴を付けることは、むしろグッドアイデアだと思っている。

<解説>

転倒予防のためには何でも許されるということはありません。

鈴を付けることは、見守りというよりも監視の意味の方が強いと感じられます。

2) 解答（例示）

・新人職員Dさんには、改めてどういう行為が虐待となるのか一つひとつの行為を提示しながら学ぶ機会をつくるようにする。

<解説>

ベテランスタッフCさんの行為を、当たり前を受け止めている新人スタッフDさんがいます。ということは、この職場は全員がDさんのように受け止めているのではないかと考えられます。

パートで入ったAさんが、Dさんの説明を聞いてどう感じたのか気になるところです。違和感を感じてくれるのか、それとももっと良い方法があると言って、より身体拘束や身体的虐待の方向へと進ませてしまうのか、みなさんはどう思いますか？ パートという立場と新人という立場で意見を言うことは生易しいことではありません。しかし見過ごすわけにはいかないと思います。見過ごしてしまえば、このAさんもまた虐待をしている一員になってしまうからです。

Aさんがどう動けばよいのか考えたいところです。

<総合解説>

この事例では、ベテランスタッフのCさんによる虐待行為を、新人スタッフのDさんがパートのAさんに解説しているというものです。解説の内容にはもっともらしいことがちりばめられているように感じられますが、全てが虐待行為として受け止められます。知らず知らずのうちに、ケアする側の都合が優先されていることに気づきたいものです。本人の自己決定と安全確保の保証は簡単ではありませんが、あきらめずに知恵を絞って考えていかなければなりません。